

基礎講座ニュース

第5回 子どもの発達を学ぶ

日時 9月25日(木)

受講者 8名 考える会 2名

◎学習のねらい (一部抜粋)

子どもの行動には背景があり、自らの思いを十分に表現できないことや、その表し方も様々です。そして子どもは、失敗を含め様々な経験を積み重ねながら、成長・発達していく過程にあることを十分に踏まえなければなりません。子ども理解と働きかけの基本的な視点は「子どもの権利」と「発達」です。

◎講座内容 (一部抜粋)

なぜ発達を学ぶのか？子どもたちの行動をより正しく、より深く理解し、適切に対応するため
→適切な意図的対応につながる。

幼児期の発達の特徴を残しつつ、思春期・青年期の発達の特徴の芽生えがみられる。行きつ戻りつしながら発達していく。

人間の発達において、乳幼児期の発達課題をクリアすることは人生の土台となる。発達課題がクリアされていないと分かった時点から戻って環境を整えたり、経験を積み直したりすることは有効である→時間はかかるがやり直すことはできる。成功と不成功両方が大事で、両者の統合したものが正常な成長に寄与する。

◎受講者からの振り返りシート(一部抜粋)

- ・子どもの1年生から6年生までの成長過程を学んで、半年間の間に経験してきた事一つひとつが納得のいくことばかりでした。
- ・よく喧嘩をする1年生と3年生の兄弟も仲良く遊びたい気持ちはありつつも、1年生は自分の気持ちを強く通そうとする時期にあり、3年生は少し広い視点を持てるようになったからであり、これからは「また喧嘩してる…」と思うのではなく、お互いの気持ちを尊重し納得のできるような感情の橋渡し役になっていけたらなと思います。
- ・発達の過程には順序性があることを学んで、年代に応じた行動や言動をとれていない子がいた時にエリクソンの発達課題を意識して子どもたちと接したいです。
- ・今回学んだ子どもの発達は、前回学んだ子どもの権利と合わせてとても重要な内容だということを教えていただきました。今回の講座で一番心に残っていた話は、主に低学年の子どもは自分の見ていることがすべてだと思い込んで相手の見ていることや、考えていることをすべて間違っていると思ってしまうことがあるという話でした。今まで低学年の子と関わってきた中で当てはまる所が何度もあったと思います。

次回は、10月23日(木)に行われた第6回の講座について、お伝えします。